

7. その他

設問31 院内において、血液製剤の有効期間が過ぎた等の理由で、平成25年4月1日～平成25年6月30日の3ヶ月間で使用しなかった、おおよその単位数(200mL換算)を記載して下さい。

※注 新鮮凍結血漿製剤については、
 FFP-LR-1(120mL)→1単位、FFP-LR-2(240mL)→2単位、
 FFP-Ap(450mL)→4単位と換算してください。

【全体】

	血小板製剤	FFP	赤血球製剤	合計
使用しなかった量(単位) ①	645	655	2,370	3,670
3ヶ月使用量(単位) ②	173,027	42,691	100,238	315,956
未使用率(%) ①/(①+②)	0.37%	1.51%	2.31%	1.15%

【病床数別】

<199床以下>

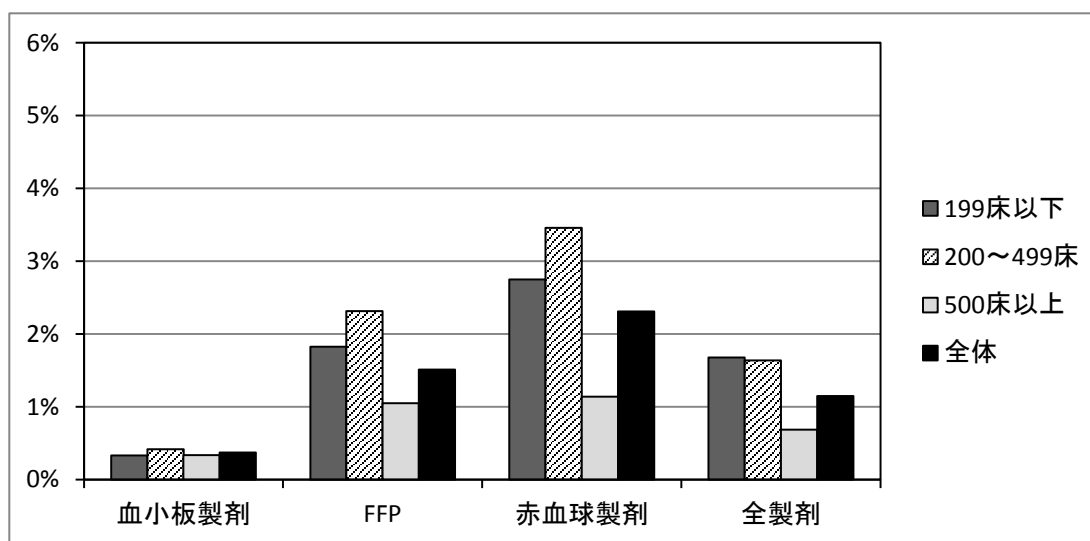
	血小板製剤	FFP	赤血球製剤	合計
使用しなかった量(単位) ①	20	38	200	258
3ヶ月使用量(単位) ②	6,032	2,042	7,075	15,149
未使用率(%) ①/(①+②)	0.33%	1.83%	2.75%	1.67%

<200床～499床>

	血小板製剤	FFP	赤血球製剤	合計
使用しなかった量(単位) ①	325	338	1,617	2,280
3ヶ月使用量(単位) ②	77,750	14,266	45,123	137,139
未使用率(%) ①/(①+②)	0.42%	2.31%	3.46%	1.64%

<500床以上>

	血小板製剤	FFP	赤血球製剤	合計
使用しなかった量(単位) ①	300	279	553	1,132
3ヶ月使用量(単位) ②	89,245	26,383	48,040	163,668
未使用率(%) ①/(①+②)	0.34%	1.05%	1.14%	0.69%

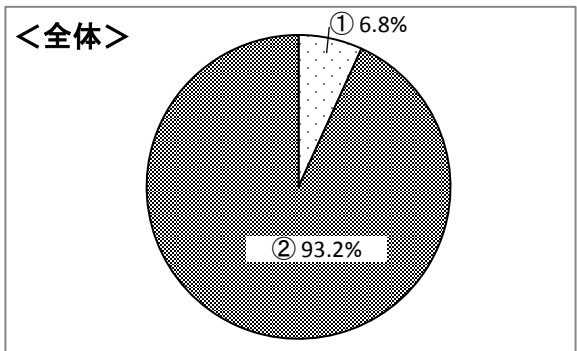


【参考】輸血管理料(I、II)の取得の有無による血液製剤の未使用率(設問31より)の比較

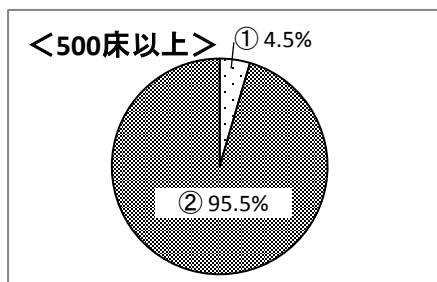
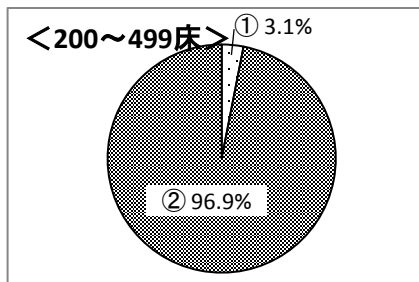
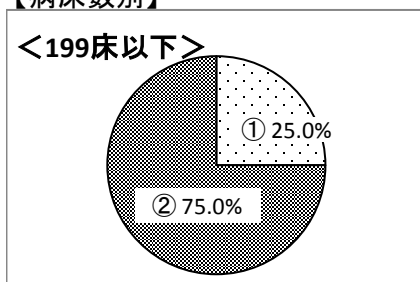
	血小板製剤	FFP	赤血球製剤	合計
輸血管理料(I、II)を取得している	0.38%	1.44%	1.97%	1.02%
輸血管理料を取得していない	0.00%	3.60%	7.17%	3.97%
全体	0.37%	1.51%	2.31%	1.15%

設問32 血液製剤の廃棄量を削減する取り組みを、病院として何かされていますか。

	199床以下	200～499床	500床以上	全体
①していない	4	2	1	7
②している	12	63	21	96
計	16	65	22	103

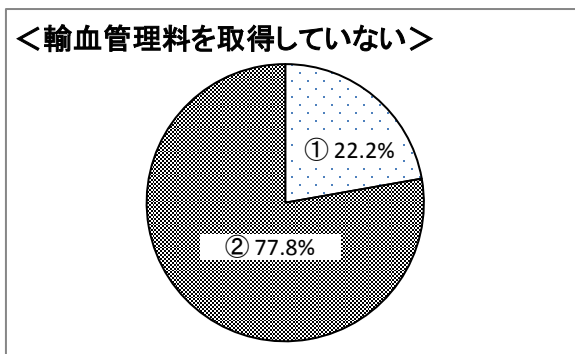
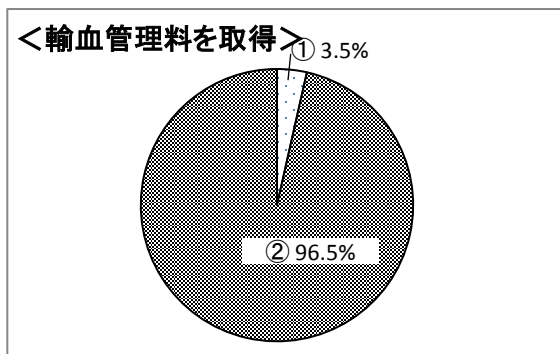


【病床数別】



【参考】輸血管理料（Ⅰ、Ⅱ）の取得の有無による血液製剤の廃棄量の取り組みの有無（設問32）の比較

	輸血管理料を取得	輸血管理料を取得していない	計
① 血液製剤の廃棄量を削減する取り組みをしていない	3	4	7
② 血液製剤の廃棄量を削減する取り組みをしている	82	14	96
計	85	18	103



○取り組み例	
・在庫量を適切に管理	31
・T&Sの導入	17
・血液製剤の在庫と有効期限の周知	15
・未使用血液の早期返却	14
・輸血療法委員会に報告	13
・別の患者への使用	11
・医局会等で血液製剤の使用・廃棄状況の周知	8
・払い出しは必要時に必要最低限の単位数のみとする	8
・血液製剤廃棄理由書の提出	6
・廃棄の多い診療科等への注意喚起	5
・MSBOSの導入	4
・出庫血液製剤の使用確認	3
・コンピュータクロスマッチの導入	3
・血液オーダー量の妥当性確認	3
・24時間検査技師による輸血業務の実施	3
・院内の未使用血液と有効期限の確認	2
・病棟保管禁止	2
・C/T比の検討	2
その他の取り組み例	
・術式別製剤準備量・使用量を診察科に掲示	
・1製剤につき複数の患者さんと交差適合試験を実施し、余剰在庫を減らす。	
・貧血の患者の場合は最低量を手術前に輸血を実施している。	
・妊婦患者は、必ず不規則抗体の検査を行う。	